

授業改善推進プラン<算数科>

算数	課題分析	授業改善策
1 年	<p>【思考力・判断力・表現力】 (A 数と計算) • 数の構成に着目して、数をほかの2つの数の和や差として捉えて表現すること • 場面に合わせて具体物を使い表現すること</p>	(A 数と計算) • 数の構成を考える場面について、具体物や半具体物を用いて表す活動を通して、数量関係を捉えられるようとする。 • 扱いやすい具体物を用意することが望ましいが、それが難しい場合は、補助的なワークシートを活用するなどして考えさせる。
2 年	<p>【思考力・判断力・表現力】 (A 数と計算) • 10の合成的分解的に見ること（第一学年） • 繰り上がりや繰り下がりのある筆算のアルゴリズムとその仕組みを理解すること (C 測定) • 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること • 時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かすこと</p>	(A 数と計算) • 日常的に数の合成と分解を意識した指導をする。 • 繰り上がりや繰り下がりのある筆算の指導では、数ブロックを用いて筆算の操作と関連付ける指導をする。 (C 測定) • 量（長さ、嵩、重さ）に関する測定の仕方を全体で確認したり、およその見当を付けて測定したりする演習を繰り返し行うことで、正しい普遍単位を判断し、活用できるようにする。 • 図を使い、「時刻は時を示すもの（点）」「時間は時刻と時刻の間（線）」ということの確認、模型時計を操作して時刻を求める経験を増やしていく。
3 年	<p>【思考力・判断力・表現力】 (A 数と計算) • 除法の文章題で、「商に1加える」「あまりを除く」など、余りの処理について、日常生活の場面を考えて適切な答えに気付くこと (C 測定) • 文章題で時刻の前を求めるのか後を求めるのかを正しく判断すること</p>	(A 数と計算) • 具体物を使用したり、図に表したりすることで、余りの処理を視覚的に捉えられるようにする。 (C 測定) • 文章に提示されている時刻から見て、前のことを見ているのか後のことを見ているのかを、数直線を見て考えさせる。
4 年	<p>【思考力・判断力・表現力】 (A 数と計算) • 除法の筆算の計算はできるが、計算の仕方について10や100のまとまりに着目して、式を用いて説明すること (B 図形) • 正しく作図すること (D データの活用) • 変わり方に着目し、特徴を考えたり、説明したりすること</p>	(A 数と計算) • 具体物を活用しながら、10や100のまとまりに着目できるようにする。 (B 図形) • ICT機器を活用しながら、作図の仕方を分かりやすく提示する。 (D データの活用) • グラフや表の読み取りをする際、項目や数値を求めるだけでなく、そこから読み取れる傾向や特徴を考えせらるようにする。 • 個別で考えた後に、全体で学び合う時間を設定し、友達の考えを聞いたり、ふれたりする機会を設定する。
5 年	<p>【思考力・判断力・表現力】 (A 数と計算) • 小数の乗法や除法の計算の仕方を考え、説明すること • 小数倍では、文章から基準量と比較量などの数量関係を読み取り、正しく立式すること • 文章から必要な情報を読み取り、式や図などに表現すること（東京ベーシック・ドリル）</p>	(A 数と計算) • 数直線を用いたり、計算に関して成り立つ性質を用いたりして解決できるようする。 • 数直線の難しい児童には、図式化をしたり、具体物を用いたりするなどして問題場面を捉えさせる。 • 文章問題に慣れ親しませるとともに、問題場面を式に表す際、式は思考の筋道を表現する手段としても用いられることに気付かせ、式のよさを捉えさせる。
6 年	<p>【思考力・判断力・表現力】 (A 数と計算) • 文章から問題場面を把握し、正しく立式すること • 分数の除法の計算の仕方について、既習事項を基に計算の仕方を考え、説明すること</p>	(A 数と計算) • 数量の関係を数直線に表して捉えさせ、立式の根拠を説明しやすくする。 • 授業の導入で既習事項を扱い、活用を促すことで、既習事項を活用すれば解決できる経験を積ませる。